

## 『土湯の森』で平成20年(第2回)植生モニタリング調査を実施

昨年に引き続き、10月5日(日)に最上川スキー場跡地で2回目の植生モニタリング調査を行いました。

今年度は、発生稚樹を把握するために昨年設定した4箇所(森林再生ゾーン〔刈払区、対象区〕、自然推移ゾーン〔、〕)の調査プロットに加え、今年6月に植栽したブナ等の稚樹を調査しています(図1)。

この調査にあたっては、山形大学農学部の高橋教夫教授と学生7名のほか、神室山系の自然を守る会からの協力をいただきました。



植生調査



調査後の意見交換

発生稚樹の調査結果をみると、スキー場跡地上部に位置する森林再生ゾーンでは、30cm未満のスギが大部分を占めています。また、刈払区では本数が多くみられますが、昨年調査した本数と大きな違いが見られないことから、刈り払い以前に発生していたものと考えられます。

スキー場跡地下部の自然推移ゾーンでは、30cm以上に生長したのも比較的多く(5,000本/ha)見られることから、順調な更新が期待できます。

植栽木の調査は、植え付けした289本全てを対象とし、樹種や苗高のほかに植栽木の状態と被害状況等を把握しています。

この植栽木は、昨年山取したもので、ブナが多く平均苗高は34cmでした。また、調査時点での正常活着は59%、枯死は7%という結果となっています。さらに特徴的なのは、植栽木の96%が何らかの被害を受けており、うちウサギによる食害が57%を占めていることが挙げられます。これら被害については、引き続き状況を見ながら必要な対策を検討する必要があります。

今後、森林の再生に向けた取組を継続していきながら、モニタリング調査による検証を進め、より良い取組へと繋げていきたいと思えます。

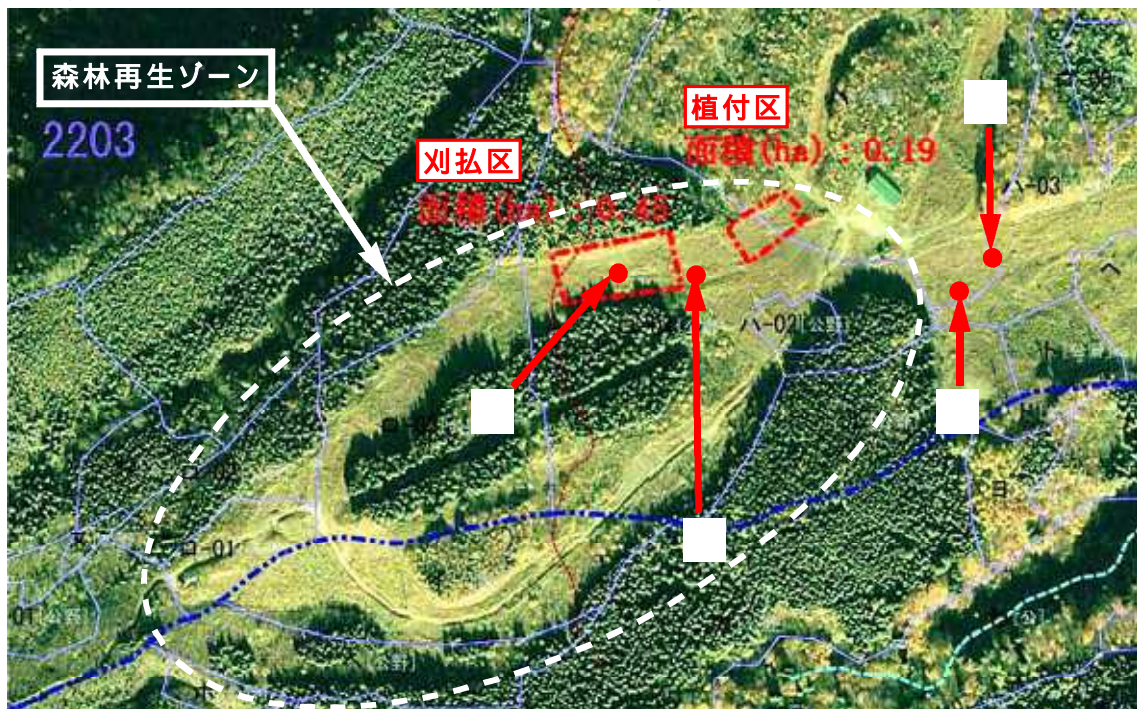
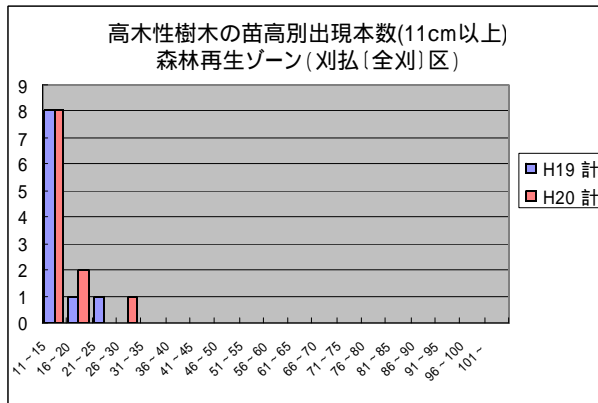
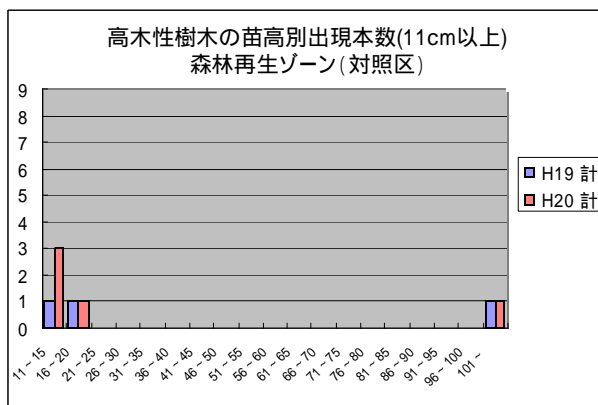


図1 調査プロット位置

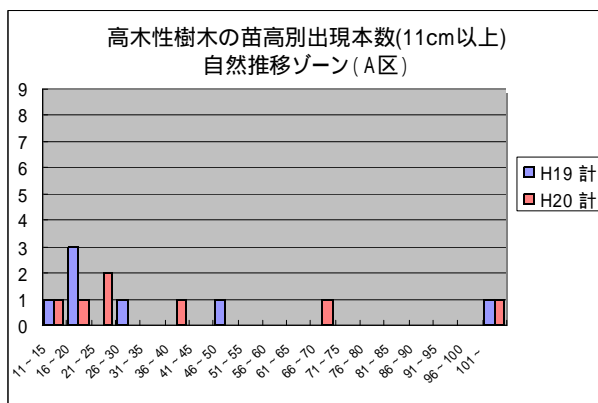
## 発生稚樹調査



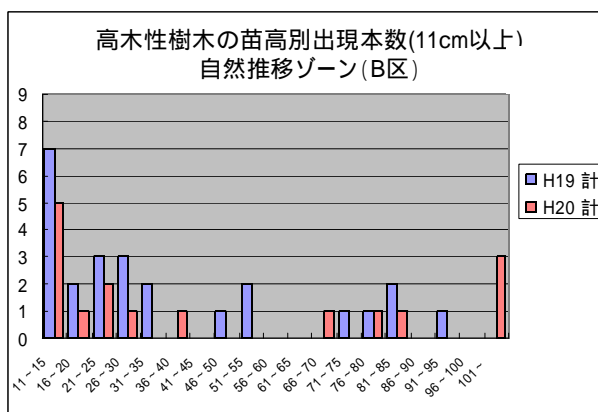
- ・ 平成19年度に引き続き、今年度も刈り払いした区域内的の調査である。
- ・ プロット内の稚樹(11cm以上)はスギのみ。
- ・ 昨年あったイタヤカエデ1本が無くなった(原因:不明)。
- ・ 本数は昨年度の10本から11本へ1本増加した。また、少し苗高の生長が見られる。



- ・ 対照区として設定したプロット内の調査である。
- ・ プロット内の稚樹(11cm以上)はスギとアカマツの2種のみ。
- ・ 稚樹の苗高は低く、本数は5本と少ないものの、昨年調査より3本増加した。

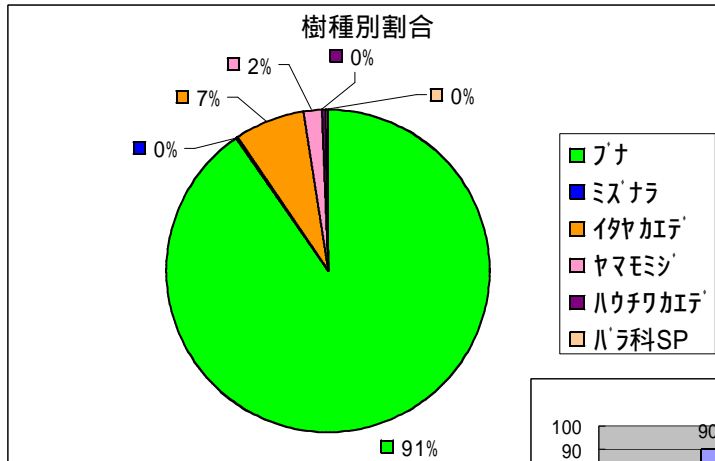


- ・ 自然推移ゾーン内に設定したプロット内の調査である。
- ・ プロット内の稚樹(11cm以上)はスギとアカマツの2種のみで、昨年調査されたヤナギが無くなった。
- ・ 本数は7本と変わらないものの、昨年より少し苗高の生長が見られる。



- ・ 自然推移ゾーン内で林縁に近く、ブナの生育した箇所に設定したプロット内の調査である。
- ・ プロット内の稚樹(11cm以上)はスギの外4種類の樹種が見られる。
- ・ 本数は16本と昨年調査時の25本より9本減少した(原因:不明)。
- ・ 苗高101cm以上に大きく生長したものが3本あり、順調な更新が期待される。

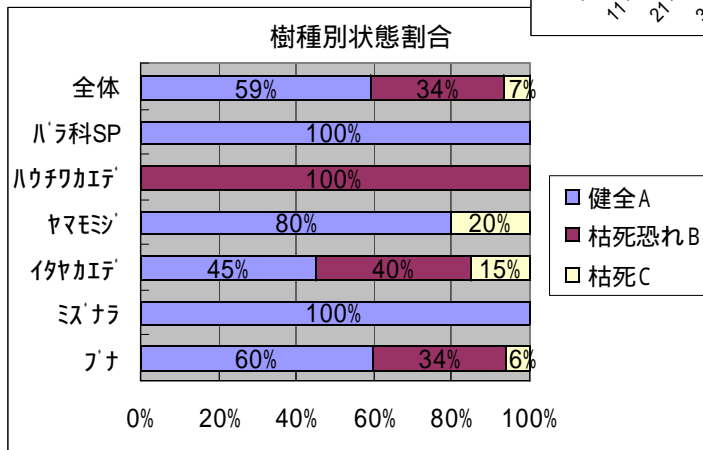
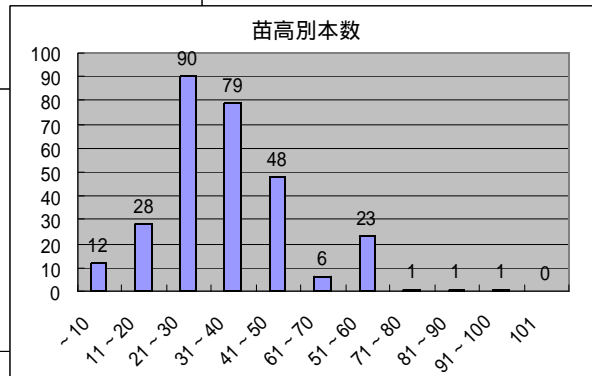
# 植栽木調査



植栽木は昨年山取し、ポットへ仮植していたものを使用。

本数割合 ブナ 91%

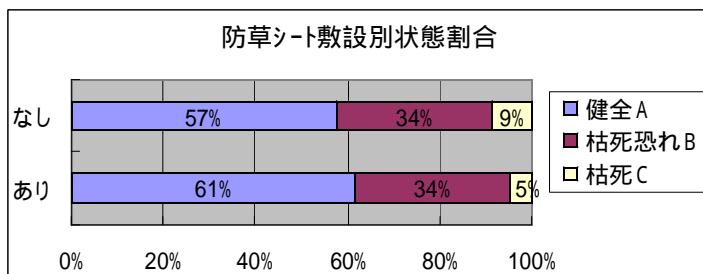
平均苗高 34cm



植栽木の状態

正常活着 59%

枯死 7%



防草シートは、防草効果のほか、乾燥防止の効果を期待して敷設。

